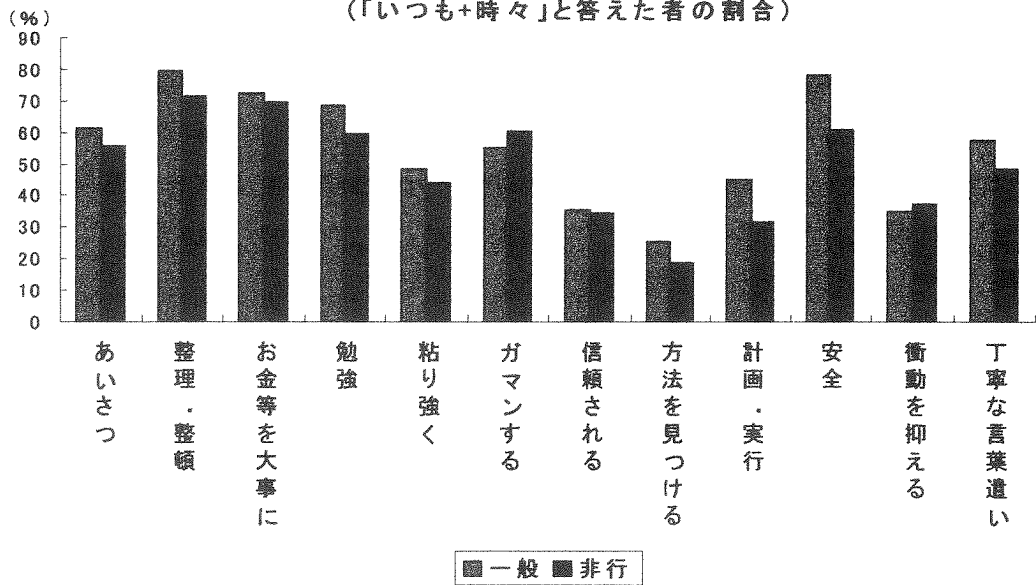


図4-3 日常生活について親から言われること  
 (「いつも+時々」と答えた者の割合)



(2) 道徳上のしつけ

道徳上のしつけについて、以下の12項目について尋ねた。

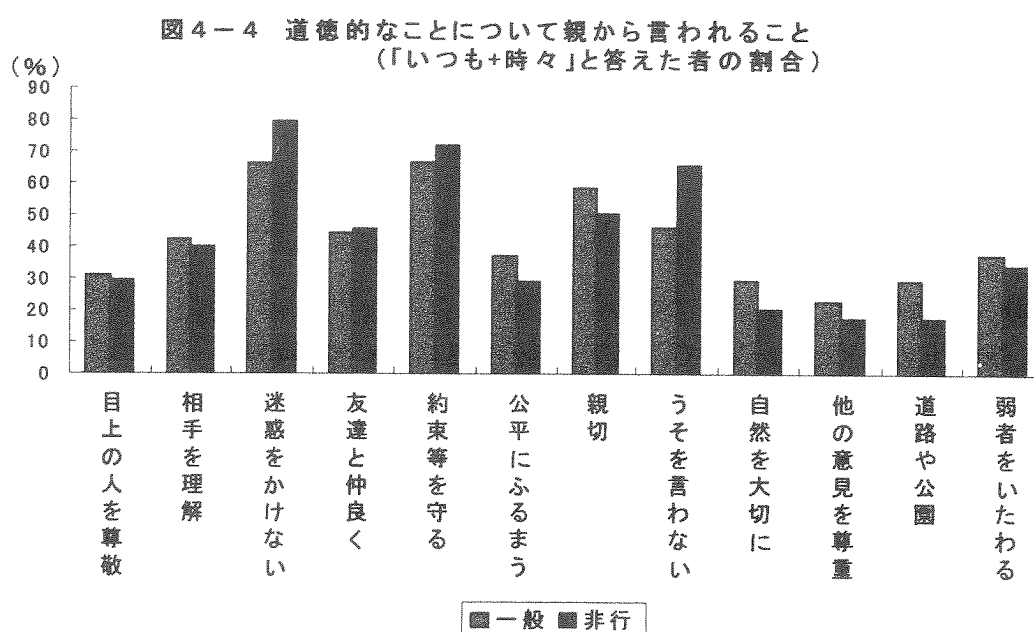
- ア 目上の人を尊敬する【目上の人を尊敬】
- イ 相手の立場を理解する【相手を理解】
- ウ 人に迷惑をかけない【迷惑をかけない】
- エ 友達と仲良くし、助け合う【友達と仲良く】
- オ 約束や決まりを守る【約束等を守る】
- カ 好き嫌いや利害にとらわれず公平にふるまう【公平にふるまう】
- キ 人に親切にする【親切】
- ク うそを言わない【うそを言わない】
- ケ 自然を大切にする【自然を大切に】
- コ 自分と異なる意見でも尊重する【他の意見を尊重】
- サ 道路や公園を汚さないように気をつける【道路等を汚さない】
- シ 弱者をいたわる【弱者をいたわる】

結果は、図4-4のとおりである。

全体的にみると、日常生活上について「言われている」と回答した者の割合より低い。道徳上のことについて、「言われている」と回答した者が一般群非行群ともに半数を超えた項目は、「人に迷惑をかけない」(一般群；66.2%・非行群；79.7%)「決まりや約束を守る」(一般群；66.5%・非行群；72.0%)「人

に親切にする」(一般群；58.4%・非行群；50.3%)であった。

一般群と非行群を比較すると、一般群の方が非行群より「言われている」と回答した者の割合が高い項目が多い。「道路等を汚さない」は、一般群の方が「言われている」と回答した者の割合が10ポイント以上高いが、「人に迷惑をかけない」「うそを言わない」は、非行群の方が10ポイント以上高い。これは、日常生活上のしつけと同様に、非行群の少年の今の行動に対して、その親が注意することを喚起させられている結果であると推測できる。



### 3 規範意識形成を阻害する要因

ここでは、規範意識を阻害する要因として、以下の4項目について日常生活の中でどのくらい感じているかを尋ねた結果を述べる。

- ア 親が自分に対して期待をかけすぎること【親の期待】
- イ 将来に対する不安【将来の不安】
- ウ 生活に対する息苦しさ【息苦しさ】
- エ 学校生活の中での様々なプレッシャー【学校生活のプレッシャー】

回答は、それぞれの項目について、以下の選択肢の中から1つを選択するよう求めた。

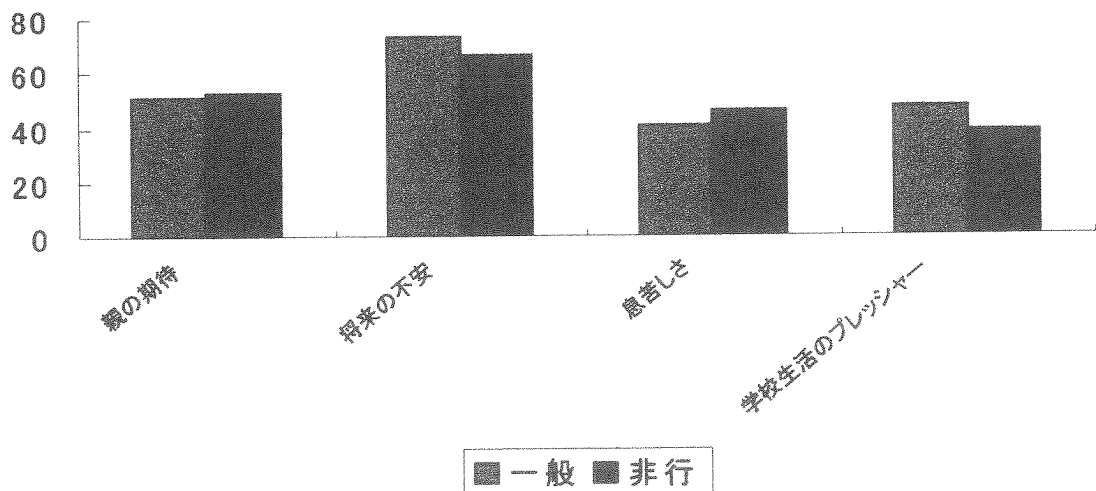
- 1 よくある
- 2 時々ある
- 3 ほとんどない
- 4 全くない

「よくある」あるいは「時々ある」と答えた者の割合を合計した結果を図4-5に示した。

これをみると、一般群・非行群ともに「親が自分に対して期待をかけすぎる」と感じている者が約半数（一般群；51.2%・非行群；52.3%）おり、「将来に対する不安」を感じている者も一般群が73.5%、非行群も66.6%と、それぞれ2/3以上の者が将来に対して何らかの不安を抱いている。また、「息苦しさ」を感じている者は、一般群が40.3%に対して非行群は45.9%、「学校生活のプレッシャー」を感じている者は、一般群が47.4%に対して非行群は38.4%と、若干の差はあるものの、顕著な差は認められない。

ここでは、規範意識形成を阻害する要因として、「親の期待」や「将来に対する不安」「生活の息苦しさ」「学校生活のプレッシャー」を考え、一般群と非行群を比較検討したが顕著な差は認められず、こうしたことが規範意識形成を阻害する要因であるとの考えを否定する結果であった。

図4-5 日常生活で感じること  
（「よくある+時々ある」と回答した者の割合）



#### 4 まとめ

この節では、規範意識を形成する要因として「親子の触れ合い」と「家庭のしつけ」を考え、一般群（規範意識の高い群）と非行群（規範意識の低い群）で比較した。

まず、家庭のしつけについてみる。日常生活上のことより道德上のことについて「言われている」と回答した者の割合が両群とも少なく、道德上のしつけが不足していることが推測できる。また、一般群と非行群を比較すると、全体的には一般群の方が「言われている」と回答した者の割合が非行群より高い項目が多かったが、その差はあまり顕著ではなく、規範意識の高低を決定付ける要因とは認められなかった。これは、「今」どのくらい言われているかという質問に対する回答を求めたために、例えば非行群の少年がその非行行動を抑止するための言葉として、親が「人に迷惑をかけた」「うそを言わない」などの注意を喚起されたのではないかと推測できるなど、他の要因も加わってしまったことなどが考えられ、もう少し年齢を遡った時点でどうであったかを検討すべきであろう。

「親子の触れ合い」では、小学生の頃と限定して尋ねた。その結果、一般群の少年と非行群の少年とを比較すると、触れ合いの程度に差が認められ、親子の触れ合いが規範意識を形成する要因の1つであろうことを示している。

また、「親の期待」や「将来の不安」「生活に対する息苦しき」「学校生活のプレッシャー」が規範意識を形成する阻害要因になるのではないかと考え、一般群と非行群とで比較したが、ほとんどその差異は認められなかった。むしろ、先に犯罪抑止を阻害する理由の項で「一般群非行群とも約8割の少年がイライラを感じている」と述べたが、半数以上の少年が「親の期待のかけすぎ」を感じ、2/3以上の少年が「将来の不安」を感じているという結果は、約8割の少年が抱いているイライラの原因になっていることを推測させる。